

キャベツのコナガに対する BT 剤を用いた体系防除

○上室 剛¹・福田 健²

¹鹿児島県農業開発総合センター 大隅支場

²鹿児島県農業開発総合センター 茶業部

鹿児島県のキャベツ栽培においてコナガは、ジアミド系の一部薬剤に対して近年、抵抗性を発達させている(福田・林川, 2014)。そのため、本種に対する防除は、異なる系統の薬剤を体系的に使用することが重要となっている。サブリーナフロアブルは、BT 剤の中では珍しいフロアブルタイプの剤型で、これまでにチャの重要害虫であるチャノホソガに対しては、従来の BT 剤で効果があるとされる若齢幼虫期のみではなく、殺卵活性もあることが明らかになっている(上室ら, 2016)。そのため、本剤をキャベツのコナガをはじめとするチョウ目害虫に対する体系防除剤として利用するため、コナガの卵および幼虫に対する活性を検討した。さらに、2017 年にキャベツほ場において、生育期の散布における体系防除の中で本剤を供試し、体系防除剤としての有効性について検討した結果、以下について明らかになった。

- 1) サブリーナフロアブルはコナガに対して他の BT 剤と同様に殺卵効果は認められなかったものの、ふ化直後の幼虫に対して殺虫効果が認められた。
- 2) サブリーナフロアブルはコナガの 3 齢幼虫に対して処理 48 時間後に全ての個体が死亡し、他の BT 剤と同様の高い殺虫効果を示した。
- 3) キャベツにおいて定植当日にジュリボフロアブルを灌注処理し、生育期の体系防除の中でサブリーナフロアブルを使用することで栽培期間を通じてコナガ、アオムシを低密度に抑制できた。
- 4) 体系防除を実施したキャベツほ場から採集したコナガ個体群は、ジアミド系の一部薬剤に対して依然として感受性を低下させている。

これらの結果から、ジアミド系の一部薬剤に対して抵抗性を発達させているコナガが発生しているキャベツにおいて、BT 剤であるサブリーナフロアブルは、生育期散布の体系防除剤のひとつとして利用可能であることが示唆された。なお、本試験は 2016~2017 年全農農薬委託試験の一部として実施した。

Control of the diamondback moth using *Bacillus thuringiensis* in cabbage fields.

Takeshi Kamimuro¹, Takeshi Fukuda²

¹Kagoshima Prefectural Institute for Agricultural Development, Osumi Branch

²Kagoshima Prefectural Institute for Agricultural Development, Tea Division